



 TOUR OF JAPAN '15

Tour of Japan 2015 REPORT

 RING!RING!  
プロジェクト

この報告書は、競輪の補助により作成しました。  
<http://ringring-keirin.jp>

 KEIRIN

# 報告書

## CONTENTS

実施概要・大会役員	2	第6ステージ【伊豆】競技結果	16
TOJ NEXT10	3	第7ステージ【東京】競技結果	18
参加チームリスト	4	リザルト（総合結果）	20
第1ステージ【堺】競技結果	6	広報ツール	22
第2ステージ【いなべ】競技結果	8	パブリシティ テレビ	23
第3ステージ【美濃】競技結果	10	パブリシティ 新聞・雑誌・WEB	24
第4ステージ【南信州】競技結果	12	協賛・会場露出	28
第5ステージ【富士山】競技結果	14		

## Outline of the race 実施概要

●名称	UCI公認国際自転車ロードレース 第18回 ツアー・オブ・ジャパン (アジアツアー・レースクラス2.1)	●開催日程	2015年5月17日(日)～24日(日)
●主催	自転車月間推進協議会	5/17(日)	13:40スタート 第1ステージ【堺】 大仙公園周回コース 走行距離2.65km(個人タイムトライアル)
●主管	TOUR OF JAPAN 組織委員会 (事務局:一般財団法人日本自転車普及協会)	5/18(月)	移動日
●競技主管	公益財団法人日本自転車競技連盟	5/19(火)	9:00スタート 第2ステージ【いなべ】 阿下喜駅前→下野尻交差点～ 農業公園(梅林公園)周回コース 走行距離130.7km(パレード2.8km 9.1km+15.2km×8周)
●後援	内閣府/総務省/文部科学省/経済産業省/ 国土交通省/消費者庁/東京都/大阪府/三重県/ 公益財団法人JKA/朝日新聞社/ 日刊スポーツ新聞社	5/20(水)	9:15スタート 第3ステージ【美濃】 旧今井家住宅前→横越→美濃和紙の里会館前周回コース 走行距離139.4km(パレード4.0km 11.6km+21.3km×6周)
●協力	堺市/いなべ市/岐阜県/美濃市/飯田市/ 飯田観光協会/小山町(静岡県駿東郡)/伊豆市/ 一般財団法人日本サイクルスポーツセンター/ 東京港埠頭株式会社	5/21(木)	9:15スタート 第4ステージ【南信州】 飯田駅→下久堅周回コース→松尾総合運動場前 走行距離123.6km(パレード7.3km 12.2km×10周+1.6km)
●特別協賛	三菱電機株式会社/SPEEDチャンネル/ 一般社団法人自転車協会/富士重工業株式会社/ 日本トーター株式会社	5/22(金)	10:00スタート 第5ステージ【富士山】 (セレモニーラン:小山町生涯学習センター→須走商店街→ ふじあざみライン入口13.2km) ふじあざみライン入口→富士山須走口5合目(ヒルクライム) 走行距離11.4km
●協賛	株式会社Champion System Japan/THULE/ ヤマハ発動機株式会社/ダイドードリンコ株式会社/ 株式会社シマノ/アメアスポーツジャパン株式会社/ 株式会社NIPPO/株式会社キナン/株式会社ミヤタサイクル/ パナソニックサイクルテック株式会社/株式会社マトリックス/ 岡三証券株式会社/Rapha Japan/井上ゴム工業株式会社/ 株式会社ゼンリン/ブリヂストンサイクル株式会社/ 東京サンエス株式会社/株式会社パールイズミ/ 東京海上日動火災保険株式会社/KTC京都機械工具株式会社/ 株式会社深谷産業/株式会社オージーケーカブト/ 芙蓉総合リース株式会社/みずほ銀行	5/23(土)	9:30スタート 第6ステージ【伊豆】 日本サイクルスポーツセンター周回コース 走行距離122.0km(12.2km×10周)
		5/24(日)	11:00スタート 第7ステージ【東京】 日比谷シティ前→大井埠頭周回コース 走行距離112.7km(パレード1.2km 14.7km+7.0km×14周)

総走行距離 642.45km

## Officials 大会役員

会長	The Chairman 石黒 克巳 ISHIGURO KATSUMI	副委員長	Committee Vice-Chairman 松倉 信裕 MATSUKURA NOBUHIRO	長澤 恵一 NAGASAWA KEIICHI
副会長	VicePresidents 渡辺 恵次 WATANABE KEIJI	委員	Members Committee 斧 隆夫 ONO TAKAO	榎 正人 ENOKI MASATO
監事	Auditor 野澤 隆寛 NOZAWA TAKAHIRO		小鷹狩 幸一 KODAKARI KOUICHI	早坂 和広 HAYASAKA KAZUHIRO
委員長	Committee Chairman 渋谷 良二 SHIBUYA RYOJI		佐藤 成美 SATO SHIGEMI	黒川 剛 KUROKAWA TAKESHI
			諸星 利雄 MOROBOSHI TOSHIO	飯田 太文 HIDA TAMON
			塩田 透 SHIOTA TORU	
			竹林 義久 TAKEBAYASHI YOSHIHISA	



# 新構想TOJ NEXT10を掲げ、 地域貢献型ロードレースとして、 新たなスタートを切った18th TOJ。

ツアー・オブ・ジャパンは、1982年から1995年まで14回に渡り開催された『国際サイクルロードレース』を継承。1996年には、UCI（国際自転車競技連合 Union Cycliste Internationale）よりステージレースとして公認され、その名称を『ツアー・オブ・ジャパン』に変更し、記念すべき第1回大会が開催されました。2013年の第16回大会より、レースクラスが『UCI-2.1』となり、UCIワールドチームや世界トップレベルで活躍する強豪選手が参戦。アジア最高クラスのハイレベルな国際レースへと成長しました。

今年の第18回大会では、全7ステージ（走行総距離642.45km）が行なわれ、前回大会を凌ぐ、30万人を超える人々が会場や沿道に集まり、たくさんの声援を受けました。また、TV放映（BSフジ6/20）や新聞・WEB・雑誌などの国内での報道はもとより、海外メディアにもとりあげられ、日本最大規模の自転車ロードレースとして世界中から注目されました。

そして、2015年、私たちは新たに「TOJ NEXT 10」という長期構想を掲げました。これまでに行なってきた地域密着型レースとしての存在価値をさらに高め、「地域貢献」と「ビジネスモデルの創出」という2つの命題に取り組んでいきます。「まちおこしツール」として、ツアー・オブ・ジャパンを最大限活用し、「地域経済主導型」の新しいビジネスモデルを創出していきます。

# Team List

## 参加チームリスト



### ランプレ・メリダ

UCI World Team

イタリア



No. Name / 選手名

- 1 BONIFAZIO Niccolo / ニッコロ・ボニファジオ
- 2 CONTI Valerio / ヴァレリオ・コンティ
- 3 FENG Chun Kai / チュン カイ・フェン
- 4 COSTA Mario / マリオ・コスタ
- 5 KOSHEVOY Ilya / イリア・コシェヴォイ
- 6 PIBERNIK Luka / ルカ・ピベルニク

### NIPPO・ヴィーニ ファンティーニ

UCI Professional Continental Team

イタリア



No. Name / 選手名

- 11 KUROEDA Shiki / 黒枝士揮
- 12 YAMAMOTO Genki / 山本元喜
- 13 CHAPARRO Dideir / ディディエール・チャパロ
- 14 NIBALI Antonio / アントニオ・ニバリ
- 15 MARINI Nicolas / ニコラス・マリーニ
- 16 POZZO Mattia / マッティア・ポッツォ

### ドラパック プロフェッショナル サイクリング

UCI Professional Continental Team

オーストラリア



No. Name / 選手名

- 21 GIRDLESTONE Dylan / ディラン・ガードストーン
- 22 ROE Timothy / ティモシー・ロエ
- 23 JONES Brenton / ブレントン・ジョーンズ
- 24 KONING Peter / ピーター・コニング
- 
- 26 PHELAN Adam / アダム・フェラン

### アヴァンティ レーシングチーム

UCI Continental Team

ニュージーランド



No. Name / 選手名

- 31 DYBALL Benjamin / ベンジャミン・ディボール
- 32 GUNMAN Taylor / テイラー・ガンマン
- 33 VAN DER PLOEG Neil / ニール・ヴァンデルブローグ
- 34 DAVISON Tom / トーマス・デイヴィソン
- 35 O'BRIEN Mark / マーク・オブライエン
- 36 CHRISTIE Jason / ジェイソン・クリスティ

### タブリーズ ペトロケミカル チーム

UCI Continental Team

イラン



No. Name / 選手名

- 41 MIZBANI IRANAGH Ghader / ガーデル・ミズバニ・イラナグ
- 42 POURSEYEDIGOLAKHOUR Mirsamad / ミルサマ・ホルセイディゴラコル
- 43 KOLAHDOZHAGH Amir / アミール・コラドゥーズハグ
- 44 KAZEMI SARAI Ahad / アハド・カゼミ・サライ
- 45 KHADEMI Ali / アリ・ハデミ
- 46 NAZARI DAGHALIAN Abolfazl / アボルファズィル・ナザリ

### RTS サンティック レーシングチーム

UCI Continental Team

台湾



No. Name / 選手名

- 51 SHPILEVSKIY Boris / ボリス・シュピレフスキー
- 52 HUANG Wen-Chung / ウェン チュン・ファン / 黄文忠
- 53 JANG Sun Jae / サン ジャエ・ジャン / 張先載
- 54 GORODNICHEV Ilya / イリヤ・ゴロドニチェフ
- 55 THOMEL Tino / ティノ・ソメル
- 56 NINO CORREDOR Victor / ヴィクトル・ニノ コレドール

### ビシュガマン ジャイアントチーム

UCI Continental Team

イラン



No. Name / 選手名

- 61 ZARGARI Amir / アミール・ザルガリ
- 62 ASKARI Hossein / ホセイン・アスカリ
- 63 EMAMI Rahim / ラヒーム・エマミ
- 64 MOAZAMI GODARZI Rvin / アルヴィン・モアゼミ
- 65 MEHRBANI AZAR Ramin / ラミン・メフラバニアザル
- 66 POULY Peter / ペーター・ポーリー

### スカイダイヴ ドバイ プロサイクリングチーム

UCI Continental Team

アラブ首長国連邦



No. Name / 選手名

- 71 MANCEBO Francisco / フランシスコ・マンセボ
- 72 GUSEV Vladimir / ウラジミール・グセフ
- 73 PALINI Andrea / アンドレア・パリーニ
- 74 HADDI Soufiane / ソーフィアン・ハディ
- 75 CHTIOUI Rafea / ラファー・シティウイ
- 76 PINTO Edgar / エドガル・ピント

**ブリヂストン アンカー サイクリングチーム**

UCI Continental Team

日本

**No. Name / 選手名**

- 81 LEBAS Thomas / トマ・ルバ
- 82 MONIER Damien / ダミアン・モニエ
- 83 HATSUYAMA Sho / 初山 翔
- 84 TERASAKI Takero / 寺崎 武郎
- 85 UCHIMA Kohei / 内間 康平
- 86 NISHIZONO Ryota / 西園 良太

**愛三工業レーシングチーム**

UCI Continental Team

日本

**No. Name / 選手名**

- 91 AYABE Takeaki / 綾部 勇成
- 92 FUKUDA Shimpei / 福田 真平
- 93 ITO Masakazu / 伊藤 雅和
- 94 HIRATSUKA Yoshimitsu / 平塚 吉光
- 95 HAYAKAWA Tomohiro / 早川 朋宏
- 96 NAKANE Hideto / 中根 英登

**チーム右京**

UCI Continental Team

日本

**No. Name / 選手名**

- 101 DOI Yukihiro / 土井 雪広
- 102 YAMAMOTO Shun / 山本 隼
- 103 GUARDIOLA TORA Salvador / サルバドル・グアルディオラ
- 104 URTASUN PEREZ Pablo / パブロ・ウルタスン
- 105 PUJOL MUNOZ Oscar / オスカル・プジョール
- 106 WHITEHOUSE Daniel / ダニエル・ホワイトハウス

**宇都宮ブリッツェン**

UCI Continental Team

日本

**No. Name / 選手名**

- 111 MASUDA Nariyuki / 増田 成幸
- 112 SUZUKI Yuzuru / 鈴木 譲
- 113 ABE Takayuki / 阿部 嵩之
- 114 SUZUKI Shinri / 鈴木 真理
- 115 OKUBO Jin / 大久保 陣
- 116 AOYANAGI Kazuki / 青柳 憲輝

**那須ブルーゼン**

UCI Continental Team

日本

**No. Name / 選手名**

- 121 SANO Junya / 佐野 淳哉
- 122 IWAI Kohta / 岩井 航太
- 123 YOSHIOKA Naoya / 吉岡 直哉
- 124 SUZUKI Ryu / 鈴木 龍
- 125 AMEZAWA Takeaki / 雨澤 毅明
- 126 ARASHIRO Yudai / 新城 雄大

**シマノレーシングチーム**

UCI Continental Team

日本

**No. Name / 選手名**

- 131 IRIBE Shotaro / 入部 正太郎
- 132 KIMURA Keisuke / 木村 圭佑
- 133 AKIMARU Yuya / 秋丸 湧哉
- 134 YOKOYAMA Kota / 横山 航太
- 
- 136 KOYAMA Takahiro / 小山 貴大

**マトリックス パワータグ**

UCI Continental Team

日本

**No. Name / 選手名**

- 141 PRADES Benjamin / ベンジャミン・ブラデス
- 142 FERNANDEZ Airan / アイラン・フェルナンデス
- 143 TORIBIO Jose Vicente / ホセ・ヴィセンテ・トリビオ
- 144 YOSHIDA Hayato / 吉田 隼人
- 145 YASUHARA Daiki / 安原 大貴
- 146 MUKAIGAWA Naoki / 向川 尚樹

**キナン サイクリングチーム**

UCI Continental Team

日本

**No. Name / 選手名**

- 151 GAZVODA Gregor / グレゴール・ガスボダ
- 152 CRAWFORD Jai / ジャイ・クロフォード
- 153 NAKANISHI Shigetomo / 中西 重智
- 154 ITAMI Kenji / 伊丹 健治
- 155 NONAKA Ryoma / 野中 竜馬
- 156 MIZUNO Kyohei / 水野 恭兵

**日本ナショナルチーム**

National Team

日本

**No. Name / 選手名**

- 161 TOKUDA Suguru / 徳田 優
- 162 KUROEDA Saya / 黒枝 咲哉
- 163 OMOTE Toshiki / 面手 利輝
- 164 MATSUMOTO Yusuke / 松本 祐典
- 165 KOBASHI Yuri / 小橋 勇利
- 166 AKITA Takuma / 秋田 拓磨



# 堺ステージ

5/17 sun 13:40 start

大仙公園周回コース

走行距離 2.65km (個人タイムトライアル)

来場者数：71,000人

気温：26℃

天候：晴れ

## ブレントン・ジョーンズ、全4賞を独占!

ツアー・オブ・ジャパンの幕開けを飾る、第1ステージは大阪府堺市での2.65km個人タイムトライアル。仁徳天皇陵に隣接する大仙公園の周回コースは、高低差はほとんどないが、道幅が狭く、鋭角コーナーもあるため、スピードとバイクコントロールが求められる。各チームの選手が第1～第6グループに分かれ、選手は30秒ごとにスタートする。

レースは、第3グループ終了の時点で、アダム・フェラン（ドラバック プロフェッショナル サイクリング）が3分20秒台のトップタイムを出し、そのまま第4グループまで暫定1位をキープ。第5グループ終了時点では、トップをトーマス・デイヴィソン（アヴァンティ レーシングチーム）が奪い、2位にアダム・フェラン、3位にアンドレア・パリーニ（スカイダイヴ ドバイ プロサイクリングチーム）がつけ、最終グループの走りを待つ。

最終グループでは、ニール・ヴァンデルプログ（アヴァンティ レーシングチーム）がトップタイムを更新するも、ブレントン・ジョーンズ（ドラバック プロフェッショナル サイクリング）が3分19秒17を叩き出し、堺ステージを制した。ジョーンズは区間賞（ステージ優勝）に加え、総合時間賞・ポイント賞・新人賞も獲得。堺ステージに設定された全4賞を独占した。日本勢のトップは中根英登（愛三工業レーシングチーム）、3秒56差の8位に入った。



個人総合時間賞	 プレントン・ジョーンズ ドラバック プロフェッショナル サイクリング
個人総合ポイント賞	 プレントン・ジョーンズ ドラバック プロフェッショナル サイクリング
新人賞	 プレントン・ジョーンズ ドラバック プロフェッショナル サイクリング
区間賞 (堺ステージ優勝)	プレントン・ジョーンズ ドラバック プロフェッショナル サイクリング

### 堺ステージ上位5名

順位	選手名	所属	タイム
1	プレントン・ジョーンズ	ドラバック プロフェッショナル サイクリング	3'19".17
2	ニール・ヴァンデルブローグ	アヴァンティレーシングチーム	+0".61
3	トーマス・デイヴィソン	アヴァンティレーシングチーム	+1".15
4	アダム・フェラン	ドラバック プロフェッショナル サイクリング	+1".59
5	アンドレア・パリーニ	スカイダイヴドバイ プロサイクリングチーム	+1".96

### 堺ステージ個人総合上位5名

順位	選手名	所属	タイム
1	プレントン・ジョーンズ	ドラバック プロフェッショナル サイクリング	0:03'19"
2	ニール・ヴァンデルブローグ	アヴァンティレーシングチーム	+0'00"
3	トーマス・デイヴィソン	アヴァンティレーシングチーム	+0'01"
4	アダム・フェラン	ドラバック プロフェッショナル サイクリング	+0'01"
5	アンドレア・パリーニ	スカイダイヴドバイ プロサイクリングチーム	+0'02"



▲スターター：島野喜三（株）シマノ最高顧問

### プレントン・ジョーンズ選手のコメント

短いタイムトライアルは得意。自分にとって、チームにとっても、今年のツアー・オブ・ジャパンを最高の形でスタートさせることができた。去年も同じステージを走っており、そこでの経験が今回の好成績に繋がったと思う。今季初勝利であり、これからのシーズンでより多くの勝利を狙っていきたい。明日からのレースでは、自分でもなくてもいいので、チームでグリーンジャージを保持していきたいと思う。



▲開催地代表挨拶：竹山修身 堺市長



# いなべステージ

5/19 tue 9:00 start

阿下喜駅前→下野尻交差点～農業公園（梅林公園）周回コース

走行距離130.7km（パレード2.8km 9.1km+15.2km×8周）

来場者数：18,000人

気温：26℃

天候：雨のち晴れ



## ラスト5km、ラファール・シティウィが抜け出す！

移動日を挟んでの第2ステージは、今回、初開催となる三重県いなべ市。日本では数少ないナローゲージの三岐鉄道北勢線の終着駅「阿下喜駅」をスタートし、農業公園（梅林公園）周回コースを8周する130.7kmの公道サーキットコース。レースはスタート直後から、何名かの選手がアタックをしかけるが、そのつど集団に吸収される。

残り6周で、日本人選手を中心とした9名の選手がアタックをしかけるも、残り5周で集団に吸収。その後、ソーフィアン・ハディ（スカイダイヴ ドバイ プロサイクリングチーム）が単独でアタックをかけ、残り3周回では1分40秒の差をつけるが、残り2周でまたしても集団に吸収されてしまう。

そして、いよいよ終盤。14名の選手がアタックをかけ、大きな先頭集団をつくる。ラスト1周時点で、後続とのタイム差は1分17秒。ゴールまで残り5kmの地点で、先頭集団からチュニジアチャンピオンのラファール・シティウィ（スカイダイヴ ドバイ プロサイクリングチーム）が抜け出す。後続とのタイム差を約10秒に広げ、そのまま逃げ切り、いなべステージの初代ウイナーとなった。2位には、チームメートであるフランシスコ・マンセボが入り、スカイダイヴ ドバイ プロサイクリングチームがワンツーフィニッシュを飾った。日本勢のトップは21位の土井雪広（チーム右京）。

個人総合時間賞	 ラファール・シティウイ スカイダイヴ ドバイ プロサイクリングチーム
個人総合ポイント賞	 ラファール・シティウイ スカイダイヴ ドバイ プロサイクリングチーム
個人総合山岳賞	 マッティア・ポッツォ NIPPO・ヴィーニ ファンティーニ
新人賞	 アダム・フェラン ドラバック プロフェッショナル サイクリング
区間賞 (いなベステージ優勝)	ラファール・シティウイ スカイダイヴ ドバイ プロサイクリングチーム

#### いなベステージ上位5名

順位	選手名	所属	タイム
1	ラファール・シティウイ	スカイダイヴ ドバイ プロサイクリングチーム	3:10'06"
2	フランシスコ・マンセボ	スカイダイヴ ドバイ プロサイクリングチーム	+ 15"
3	ルカ・ピベルニク	ランプレ・メリダ	+ 15"
4	トマ・ルバ	プリチストン アンカー サイクリングチーム	+ 15"
5	ミルサマ・ボルセイェディゴラコル	タブリーズ ベトロケミカル チーム	+ 15"

#### いなベステージ個人総合上位5名

順位	選手名	所属	タイム
1	ラファール・シティウイ	スカイダイヴ ドバイ プロサイクリングチーム	3:13'20"
2	フランシスコ・マンセボ	スカイダイヴ ドバイ プロサイクリングチーム	+ 0'20"
3	アダム・フェラン	ドラバック プロフェッショナル サイクリング	+ 0'21"
4	ルカ・ピベルニク	ランプレ・メリダ	+ 0'24"
5	ダミアン・モニエ	プリチストン アンカー サイクリングチーム	+ 0'30"



▲表彰式プレゼンター：日沖靖 いなべ市長・TOJキッズ



▲開催地代表挨拶：鈴木英敬 三重県知事



#### ラファール・シティウイ選手のコメント

ラスト10kmはとても厳しいものだった。予期せぬアタックがかかることが怖かったが、非常に調子よかったし、先行していた集団の中で自分は強い選手の1人だと思っていたので、自分の可能性を信じてラスト5kmでアタックを仕掛け、勝利することができた。今日の勝利をとってもうれしく思っている。これからチームで協力して、1日でも長くリーダージャージを守っていきたいと思うし、いくつかのステージでは区間賞も狙っている。



# 美濃ステージ

5/20 wed 9:15 start

旧今井家住宅前→横越→美濃和紙の里会館前周回コース

走行距離139.4km (パレード4.0km 11.6km+ 21.3km×6周)

来場者数：26,000人

気温：31℃

天候：晴れ



## ニコラス・マリーニ、ゴールスプリントを制す！

第3ステージの美濃は、平坦基調のスピードコースで、スプリンター向けのステージ。岐阜県美濃市の「うだつの上がる街並み」をスタートし、21.3kmの周回コースを6周する139.4kmで争われる。

レースは、スタートと同時にアイラン・フェルナンデス（マトリックス パワータグ）と、ティモシー・ロエ（ドラパック プロフェッショナル サイクリング）の2選手が先行。1周終了時には、フェルナンデスが集団に吸収され、ロエの「ひとり逃げ」となった。

集団に最大2分50秒の差をつけたロエだったが、5周目の終盤で集団に吸収される。

最終ラップでは何名かの選手がアタックをかけるが、すぐに集団に吸収され、大きな集団のままゴールへなだれ込む。ゴールスプリントを制したのは、ニコラス・マリーニ（NIPPO・ヴィーニ ファンティーニ）。ステージ優勝（区間賞）と同時に、自身のプロ初優勝を果たした。

ゴールスプリントとなったため、集団のタイム差はなく、ラファー・シティウィ（スカイダイヴ ドバイ プロサイクリング）がグリーンジャージ（個人総合時間賞）を、アダム・フェラン（ドラパック プロフェッショナル サイクリング）がホワイトジャージ（新人賞）をキープ。また、山岳リーダーのマッティア・ポッツォ（NIPPO・ヴィーニ ファンティーニ）も、山岳ポイントを2位で通過し、レッドジャージ（山岳賞）を守った。日本勢のトップは6位土井雪広（チーム右京）。



個人総合時間賞	 ラファー・シティウイ スカイダイヴ ドバイ プロサイクリングチーム
個人総合ポイント賞	 ラファー・シティウイ スカイダイヴ ドバイ プロサイクリングチーム
個人総合山岳賞	 マッティア・ポッツォ NIPPO・ヴィーニ ファンティーニ
新人賞	 アダム・フェラン ドラバック プロフェッショナル サイクリング
区間賞 (美濃ステージ優勝)	ニコラス・マリーニ NIPPO・ヴィーニ ファンティーニ

### 美濃ステージ上位5名

順位	選手名	所属	タイム
1	ニコラス・マリーニ	NIPPO・ヴィーニ ファンティーニ	3:32'18"
2	ボリス・シュビレフスキー	RTS サンティック レーシングチーム	+0"
3	アンドレア・パリーニ	スカイダイヴ ドバイ プロサイクリングチーム	+0"
4	ブレントン・ジョーンズ	ドラバック プロフェッショナル サイクリング	+0"
5	ニコロ・ボニファジオ	ランプレ・メリダ	+0"

### 美濃ステージ個人総合上位5名

順位	選手名	所属	タイム
1	ラファー・シティウイ	スカイダイヴ ドバイ プロサイクリングチーム	6:45'36"
2	フランシスコ・マンセボ	スカイダイヴ ドバイ プロサイクリングチーム	+0'19"
3	アダム・フェラン	ドラバック プロフェッショナル サイクリング	+0'23"
4	ルカ・ピベルニク	ランプレ・メリダ	+0'26"
5	ダミアン・モニエ	ブリヂストン アンカー サイクリングチーム	+0'32"



### ニコラス・マリーニ選手のコメント

自分は山が得意ではないが、山岳ポイントではチームメートたちが強気にサポートしてくれた。スプリントが始まり、最初はドラバックの選手たちが先行していたが、残り100mからスプリントを仕掛け、優勝することができた。プロ初勝利はとてうれしいし、自分を信じてくれているチーム、そして日本のスポンサーであるNIPPOにも感謝している。

▲表彰式プレゼンター：武藤鉄弘 美濃市長・土本恭正 美濃ステージ実行委員長・TOJキッズ



▲開催地代表挨拶：古田肇岐 岐阜県知事



## 4th stage MINAMI SHINSHU

# 南信州ステージ

5/21 thu 9:15 start

飯田駅→下久堅周回コース→松尾総合運動場前

走行距離 123.6km (バレード7.3km 12.2km×10周+1.6km)

来場者数：37,000人

気温：24℃

天候：晴れ



## ベンジャミン・プラデス選手のコメント

今日はきついステージだとわかっていた。終盤になって危険なアタックがかかり、集団が小さく分かれた時にチームメイトが集団にまとめてくれた。最終的に先頭集団に残ることができ、そして優勝することができてうれしく思う。最初はあまり調子が良くないと感じていたけど、レースが進むにつれて調子が上がっていった。明日の富士山ステージに向けて、今はいい手応えを感じている。富士山ステージでは、昨年の8位を上回る成績を残したいと思う。



個人総合時間賞	 アダム・フェラン ドラバック プロフェッショナル サイクリング
個人総合ポイント賞	 フランシスコ・マンセボ スカイダイヴ ドバイ プロサイクリングチーム
個人総合山岳賞	 マッティア・ポッツォ NIPPO・ヴィーニ ファンティーニ
新人賞	 アダム・フェラン ドラバック プロフェッショナル サイクリング
区間賞 (南信州ステージ優勝)	ベンジャミン・プラデス マトリックス パワータグ

### 南信州ステージ上位5名

順位	選手名	所属	タイム
1	ベンジャミン・プラデス	マトリックス パワータグ	3:08'31"
2	アダム・フェラン	ドラバック プロフェッショナル サイクリング	+0
3	トマ・ルバ	ブリヂストン アンカー サイクリングチーム	+0
4	ヴァレリオ・コンティ	ランプレ・メリダ	+0
5	ルカ・ピベルニク	ランプレ・メリダ	+0

### 南信州ステージ個人総合上位5名

順位	選手名	所属	タイム
1	アダム・フェラン	ドラバック プロフェッショナル サイクリング	9:54'24"
2	フランシスコ・マンセボ	スカイダイヴ ドバイ プロサイクリングチーム	+0'02"
3	ルカ・ピベルニク	ランプレ・メリダ	+0'09"
4	トマ・ルバ	ブリヂストン アンカー サイクリングチーム	+0'14"
5	ダミアン・モニエ	ブリヂストン アンカー サイクリングチーム	+0'15"



▲表彰式プレゼンター：牧野光朗 飯田市長・TOJキッズ

## マトリックスのプラデス、ステージ優勝！

第4ステージは長野県飯田市を中心に行なわれる激しいアップダウンコース。例年、ここからが本格的な総合争いのスタートとなる。飯田駅前からパレード走行し、12.2kmの周回コースを10周してゴールに向かう123.6kmのレース。

ファーストアタックを決めたのは内間康平（ブリヂストンアンカー サイクリングチーム）。2周目には8選手が追いつき、日本人選手3名を含めた9選手の先頭集団を形成。

3周目を終えたところで、後続集団に吸収されるが、新たにヴァレリオ・コンティ（ランプレ・メリダ）、ディラン・ガードルストーン（ドラバック プロフェッショナル サイクリング）の2名がアタックし、集団とのタイム差を最大3分50秒近くまで広げた。その後、集団とのタイム差は縮まり、9周回終了時には3選手が追走し、先頭は5選手に絞られた。

最終周回では、先行する5選手も集団に吸収され、アジアチャンピオンであるホセイン・アスカリ（ピシュガマン ジャイアントチーム）がアタック。ゴールラインに向けて独走態勢に持ち込むが、惜しくもバンク。20数名によるゴールスプリントの展開へ。

スプリントを制したのは、日本チーム「マトリックス パワータグ」のベンジャミン・プラデス。アダム・フェラン（ドラバック プロフェッショナル サイクリング）が2位につけ、個人総合成績のトップに立ち、グリーンジャージに袖を通した。同時に新人賞も獲得した。日本勢トップは17位土井雪広（チーム右京）。

# 富士山ステージ

5/22 fri 10:00 start

(セレモニーラン: 小山町生涯学習センター→

須走商店街→ふじあざみライン入口13.2km)

ふじあざみライン入口→

富士山須走口5合目(ヒルクライム)

走行距離 11.4km

来場者数: 5,800人

気温: 21℃

天候: 晴れ



## ラヒーム・エマミ、富士山を制覇!

第5ステージは、ツアー・オブ・ジャパン最大の山場。富士山の須走五合目まで、一気に駆け上がる11.4km。距離は短い、平均勾配10%、最大勾配22%に達し、本場ヨーロッパの超級山岳コースにも引けを取らない高難度ヒルクライムレース。

スタート直後、いなベステージの勝者、ラファール・シティウィ (スカイダイヴ ドバイ プロサイクリングチーム) がアタックをかけるが、集団を支配したピシュガマン ジャイアント チームがペースアップし、シティウィを吸収。

中盤になっても、ピシュガマンのハイペースは衰えず、集団から次々と選手が脱落。中間点の旧馬返では、先頭集団は9名に絞られた。

そして終盤、ピシュガマンの3選手と、昨年の覇者ミルサマ・ポルセイェディゴラコール(タブリーズ ペトロケミカル チーム) の4名が先行。

残り2km地点を過ぎたところで、ラヒーム・エマミ (ピシュガマン ジャイアント チーム) とポルセイェディゴラコールの2名となるが、その直後、エマミがアタック。38分27秒のコースレコードで富士山ステージを制した。

2位に入ったポルセイェディゴラコールは、個人総合時間のトップに立ち、1年振りにグリーンジャージに袖を通した。日本人トップの増田成幸 (宇都宮ブリッツェン) は、22位に終わった。



個人総合時間賞	 ミルサマ・ポルセイエディゴラコール タブリーズ ベトロケミカル チーム
個人総合ポイント賞	 フランシスコ・マンセボ スカイダイヴ ドバイ プロサイクリングチーム
個人総合山岳賞	 ラヒーム・エマミ ピシュガマン ジャイアント チーム
新人賞	 イリア・コシェヴォイ ランブレ・メリダ
区間賞 (富士山ステージ優勝)	ラヒーム・エマミ ピシュガマン ジャイアント チーム

### 富士山ステージ上位5名

順位	選手名	所属	タイム
1	ラヒーム・エマミ	ピシュガマン ジャイアント チーム	0:38'27"*
2	ミルサマ・ポルセイエディゴラコール	タブリーズ ベトロケミカル チーム	+ 22"
3	ホセイン・アスカリ	ピシュガマン ジャイアント チーム	+ 37"
4	ラミン・メフラバニアザル	ピシュガマン ジャイアント チーム	+ 1'08"
5	アミール・ザルガリ	ピシュガマン ジャイアント チーム	+ 1'10"

\*コースレコード

### 富士山ステージ個人総合上位5名

順位	選手名	所属	タイム
1	ミルサマ・ポルセイエディゴラコール	タブリーズ ベトロケミカル チーム	10:33'32"
2	ラヒーム・エマミ	ピシュガマン ジャイアント チーム	+ 0'19"
3	ホセイン・アスカリ	ピシュガマン ジャイアント チーム	+ 0'50"
4	アミール・ザルガリ	ピシュガマン ジャイアント チーム	+ 0'50"
5	フランシスコ・マンセボ	スカイダイヴ ドバイ プロサイクリングチーム	+ 1'06"



▲表彰式プレゼンター：斎藤礼志 小山町観光協会会長

### ラヒーム・エマミ選手のコメント

ツアー・オブ・ジャパンに出場するのは初めてで、もちろん富士山のコースを走るのも初めてのことだが、チームの誰かが優勝したいと思ってスタートした。最後の局面で他のチームメートが遅れてしまい、自分が行くしかない状況だった。本当は今日のステージで総合リーダーも取りたかったが、タイム差は僅差なので明日のステージで逆転を狙いたい。



▲セレモニーランスタター：込山正秀 小山町長

# 伊豆ステージ

5/23 sat 9:30 start

日本サイクルスポーツセンター周回コース

走行距離 122.0km (12.2km×10周)

来場者数：20,500人

気温：24℃

天候：晴れ



## UCI-WT\*のランプレ・メリダ、ワンツーフイニッシュ！

第6ステージは、静岡県伊豆市の日本サイクルスポーツセンターの12.2km特設コースを10周する122kmのレース。タイム差がつきにくい平坦コースである最終の東京ステージを前に、テクニカルなカーブやアップダウンが連続する、ここ伊豆ステージが総合成績を逆転するラストチャンスになる。

レースは、スタート直後から日本人3選手を含む6選手が逃げ、1周終了時には集団に30秒ほどの差をつけた。その後、集団から数名が飛び出し、12名ほどの先頭集団を形成。

メイン集団をコントロールするのは、グリーンジャージを着たミルサマ・ポルセイェディゴラコール擁するタブリーズペトロケミカル チーム。

終始ハイスピードな展開となり、ひとりふたりとタブリーズ ペトロケミカルチームのアシスト選手が力を使い切って集団から脱落。先頭集団の人数も減り、最終周回へ入る直前にメイン集団に吸収された。

そこからアタックが繰り返され、最終周回でヴァレリオ・コンティ（ランプレ・メリダ）がアタック。ポルセイェディゴラコールを含む9名が追走したものの、追いつくことはできず、ヴァレリオ・コンティが5秒差でゴールし、伊豆ステージを制した。2位にはチームメートのルカ・ピベルニクが入り、ランプレ・メリダがワンツーフイニッシュ。WTの本領を發揮した。

レースリーダーのポルセイェディゴラコールは8位でゴールし、グリーンジャージ（個人総合時間賞）を守った。また、山岳リーダーのラヒーム・エマミ（ピシュガマン ジャイアント チーム）の個人総合山岳賞が確定した。

日本勢トップは14位初山翔（ブリヂストン アンカー サイクリングチーム）。

\*UCIワールドチーム



個人総合時間賞	 ミルサマ・ポルセイエディゴラコール タブリーズ ベトロケミカル チーム
個人総合ポイント賞	 ヴアレリオ・コンティ ランプレ・メリダ
個人総合山岳賞	 ラヒーム・エマミ ピシュガマン ジャイアント チーム
新人賞	 イリア・コシェヴォイ ランプレ・メリダ
区間賞 (伊豆ステージ優勝)	ヴァレリオ・コンティ ランプレ・メリダ

### 伊豆ステージ上位5名

順位	選手名	所属	タイム
1	ヴァレリオ・コンティ	ランプレ・メリダ	3:26'58"
2	ルカ・ピベルニク	ランプレ・メリダ	+ 5"
3	トマ・ルバ	プリチストン アンカー サイクリングチーム	+ 5"
4	フランシスコ・マンセボ	スカイダイヴドバイ プロサイクリングチーム	+ 5"
5	トーマス・デイヴィソン	アヴァンティレーシングチーム	+ 5"

### 伊豆ステージ個人総合上位5名

順位	選手名	所属	タイム
1	ミルサマ・ポルセイエディゴラコール	タブリーズ ベトロケミカル チーム	14:00'39"
2	ラヒーム・エマミ	ピシュガマン ジャイアント チーム	+ 0'24"
3	ホセイン・アスカリ	ピシュガマン ジャイアント チーム	+ 0'52"
4	アミール・ザルガリ	ピシュガマン ジャイアント チーム	+ 0'53"
5	フランシスコ・マンセボ	スカイダイヴドバイ プロサイクリングチーム	+ 1'02"



▲表彰式プレゼンター：鈴木伸二 伊豆市副市長・TOJキッズ



### ヴァレリオ・コンティ選手のコメント

厳しい展開になると覚悟したうえでのレースだったが、チームメートとともに最終周回に全力で行こうと話していた。最初からラスト3・4周目まで、イラン勢が早いペースでレースを進めていたが、終盤になって落ち着いてきたので、攻撃を仕掛けるチャンスだと思い、ラスト2周回目でアタックをかけた。作戦通りにいい形でレースを進め、勝利することができて、とてもうれしく思う。



# 東京ステージ

5/24 sun 11:00 start

日比谷シティ前→大井埠頭周回コース

走行距離 112.7km (パレード1.2km 14.7km+7.0km×14周)

来場者数：127,000人

気温：26℃

天候：晴時々曇



## ニッコロ・ボニファジオ、2連覇を果たす！

最終の第7ステージは、東京都心の日比谷シティ前をスタートし、大井埠頭の7km周回コースを14周する112.7kmのスピードコース。最後のスタートラインには、ここまで過酷なレースを戦ってきた89名の選手が並んだ。

レースは、スタート直後から8名の選手がアタックをかけ、3周終了時には集団に約1分の差をつけた。その後、徐々に先頭グループからの選手が脱落していき、8周終了時には5名に。

9周目終了時には、ラファー・シティウィ（スカイダイヴ ドバイ プロサイクリングチーム）、ホセ ヴィセンテ・トリビオ（マトリックス パワータグ）の2名に絞られた。

周回が進むにつれ、先頭の2名と集団とのタイム差が縮まり、12周目には吸収され、大きな集団のままファイナルラップへ突入。

ゴールスプリントを制したのは、昨年の勝者ニッコロ・ボニファジオ（ランプレ・メリダ）。東京ステージ2連覇を果たした。日本勢では19歳の黒枝咲哉（日本ナショナルチーム）が5位に入った。

同じ大集団でゴールしたミルサマ・ポルセイェディゴラコール（タブリーズ ペトロケミカルチーム）がこれまでのリードを守り切り、個人総合時間賞を獲得。ツアー・オブ・ジャパン2連覇を飾った。また、ランプレ・メリダのヴァレリオ・コンティが個人総合ポイント賞を、イリア・コシェヴォイが新人賞を獲得し、UCIワールドチームの強さを印象づけた。



個人総合時間賞		ミルサマ・ポルセイエディゴラコール タブリーズベトロケミカルチーム
個人総合ポイント賞		ヴァレリオ・コンティ ランプレ・メリダ
個人総合山岳賞		ラヒーム・エマミ ピシュガマンジャイアントチーム
新人賞		イリア・コシェヴォイ ランプレ・メリダ
区間賞 (東京ステージ優勝)		ニッコロ・ボニファジオ ランプレ・メリダ

#### 東京ステージ上位5名

順位	選手名	所属	タイム
1	ニッコロ・ボニファジオ	ランプレ・メリダ	2:17'14"
2	ブレントン・ジョーンズ	ドラバックプロフェッショナルサイクリング	+0"
3	ニコラス・マリーニ	NIPPO・ヴィーニファンティーニ	+0"
4	ボリス・シュビレフスキー	RTSサンティックレーシングチーム	+0"
5	黒枝 咲哉	日本ナショナルチーム	+0"

#### 東京ステージ個人総合上位5名

順位	選手名	所属	タイム
1	ミルサマ・ポルセイエディゴラコール	タブリーズベトロケミカルチーム	16:17'53"
2	ラヒーム・エマミ	ピシュガマンジャイアントチーム	+0'24"
3	ホセイン・アスカリ	ピシュガマンジャイアントチーム	+0'52"
4	アミール・ザルガリ	ピシュガマンジャイアントチーム	+0'53"
5	フランシスコ・マンセボ	スカイダイヴバイプロサイクリングチーム	+1'02"



#### ニッコロ・ボニファジオ選手のコメント

まさか自分たちが、ポイント賞、新人賞、そして2つのステージ優勝を獲得できるなんて、大会前は思ってもみなかったこと。この結果をとてうれしく思っている。今日のステージは距離が短く、とても速いペースで進んでいった。リードアウトをしてくれたイリアが、ゴール前にクラッシュしてしまったけど、それでも勝てたことをうれしく思う。好成績を残せたことで、今はリラックスできているし、この先のシーズン後半戦も、いい結果が残せると思う。



◀左から  
なるしまフレンドレーシングチーム 藤野 智一氏  
爆笑！茶利坊主団 団長 茶利坊主氏  
千葉県サイクリング協会 会長 佐藤 明弘氏  
参議院議員/自転車活用推進議員連盟 小泉 昭男氏  
参議院議員/自転車活用推進議員連盟 事務局長 岩城 光英氏  
一般社団法人自転車協会 理事長 渡辺 恵次氏  
大人の自転車部 高砂 よういち氏  
グッド・チャリズム宣言プロジェクト 日向 涼子氏



▲スターター：橋本聖子 参議院議員／  
公益財団法人日本オリンピック委員会常務理事

# Result 第18回 ツアー・オブ・ジャパン 競技結果



## ポルセイエディゴラコール、 ツアー・オブ・ジャパン2連覇を飾る!

### 個人総合時間賞 ミルサマ・ポルセイエディゴラコール選手のコメント (タブリーズ ペトロケミカル チーム)

東京ステージではリーダー・ジャージを守ることが、チームの絶対的な目標でした。大変でしたが、チーム一丸となって頑張ってお守ることができてうれしいです。応援してくれた日本の皆さんに感謝しています。また来年、このレースに戻って来たいですし、ぜひ、また勝ちたいと思います。



### ●個人総合時間 General Individual Time Classification

順位	選手名	所属	タイム	タイム差
1	ミルサマ・ポルセイエディゴラコール	タブリーズ ペトロケミカル チーム	16:17'53"	0'00"
2	ラヒーム・エマミ	ピシュガマン ジャイアント チーム	16:18'17"	0'24"
3	ホセイン・アスカリ	ピシュガマン ジャイアント チーム	16:18'45"	0'52"
4	アミール・ザルガリ	ピシュガマン ジャイアント チーム	16:18'46"	0'53"
5	フランシスコ・マンセボ	スカイダイヴドバイ プロサイクリングチーム	16:18'55"	1'02"
6	トマ・ルバ	ブリヂストン アンカー サイクリングチーム	16:19'11"	1'18"
7	ディディエール・チャパロ	NIPPO・ヴィーニ ファンティニ	16:19'30"	1'37"
8	ダミアン・モニエ	ブリヂストン アンカー サイクリングチーム	16:19'48"	1'55"
9	ガーデル・ミズバニ・イラナグ	タブリーズ ペトロケミカル チーム	16:20'29"	2'36"
10	イリア・コシェヴォイ	ランプレ・メリダ	16:20'31"	2'38"
11	トーマス・デイヴィソン	アヴァンティレーシングチーム	16:20'38"	2'45"
12	ジャイ・クロフォード	キナンサイクリングチーム	16:21'06"	3'13"
13	ベンジャミン・ブラデス	マトリックス パワータグ	16:21'16"	3'23"
14	ホセ ヴィセンテ・トリピオ	マトリックス パワータグ	16:21'20"	3'27"
15	ルカ・ピベルニク	ランプレ・メリダ	16:21'52"	3'59"
16	増田 成幸	宇都宮ブリッツェン	16:22'20"	4'27"
17	ディラン・ガードルストーン	ドラバック プロフェッショナル サイクリング	16:22'57"	5'04"
18	エドガル・ピント	スカイダイヴドバイ プロサイクリングチーム	16:23'26"	5'33"
19	ダニエル・ホワイトハウス	チーム右京	16:23'48"	5'55"
20	ヴィクトル・ニノ コレドール	RTS サンティック レーシングチーム	16:24'02"	6'09"
21	ヴァレリオ・コンティ	ランプレ・メリダ	16:25'07"	7'14"
22	初山 翔	ブリヂストン アンカー サイクリングチーム	16:25'32"	7'39"
23	アルヴィン・モアゼミ	ピシュガマン ジャイアント チーム	16:25'39"	7'46"
24	マーク・オブライエン	アヴァンティレーシングチーム	16:26'02"	8'09"
25	アダム・フェラン	ドラバック プロフェッショナル サイクリング	16:26'27"	8'34"
26	ベンジャミン・ディポール	アヴァンティレーシングチーム	16:26'47"	8'54"
27	ラミン・メフラバニアザル	ピシュガマン ジャイアント チーム	16:27'56"	10'03"
28	イリヤ・ゴロドニチェフ	RTS サンティック レーシングチーム	16:29'52"	11'59"
29	アミール・コラドゥーズハグ	タブリーズ ペトロケミカル チーム	16:30'16"	12'23"
30	土井 雪広	チーム右京	16:30'22"	12'29"
31	西園 良太	ブリヂストン アンカー サイクリングチーム	16:32'32"	14'39"
32	ラファー・シティウィ	スカイダイヴドバイ プロサイクリングチーム	16:33'45"	15'52"
33	アハド・カゼミ・サライ	タブリーズ ペトロケミカル チーム	16:34'28"	16'35"
34	アリ・ハデミ	タブリーズ ペトロケミカル チーム	16:35'59"	18'06"
35	平塚 吉光	愛三工業レーシングチーム	16:37'23"	19'30"
36	中根 英登	愛三工業レーシングチーム	16:37'59"	20'06"
37	アボルファズィル・ナザリ	タブリーズ ペトロケミカル チーム	16:39'12"	21'19"
38	ジェイソン・クリスティ	アヴァンティレーシングチーム	16:39'19"	21'26"
39	早川 朋宏	愛三工業レーシングチーム	16:40'09"	22'16"
40	ペーター・ポーリー	ピシュガマン ジャイアント チーム	16:40'19"	22'26"
41	鈴木 譲	宇都宮ブリッツェン	16:41'30"	23'37"
42	山本 元喜	NIPPO・ヴィーニ ファンティニ	16:42'26"	24'33"
43	寺崎 武郎	ブリヂストン アンカー サイクリングチーム	16:43'48"	25'55"
44	内間 康平	ブリヂストン アンカー サイクリングチーム	16:44'23"	26'30"
45	入部 正太郎	シマノレーシングチーム	16:45'11"	27'18"
46	テイラー・ガンマン	アヴァンティレーシングチーム	16:45'47"	27'54"
47	雨澤 毅明	那須ブラーゼン	16:46'23"	28'30"
48	マリオ・コスタ	ランプレ・メリダ	16:48'25"	30'32"
49	伊藤 雅和	愛三工業レーシングチーム	16:48'42"	30'49"
50	ピーター・コニング	ドラバック プロフェッショナル サイクリング	16:49'04"	31'11"
51	秋丸 湧哉	シマノレーシングチーム	16:51'05"	33'12"
52	ウラジミール・グセフ	スカイダイヴドバイ プロサイクリングチーム	16:51'50"	33'57"
53	オスカル・ブジョル	チーム右京	16:52'05"	34'12"
54	アントニオ・ニバリ	NIPPO・ヴィーニ ファンティニ	16:53'11"	35'18"
55	ニコロ・ボニファジオ	ランプレ・メリダ	16:53'39"	35'46"
56	アイラン・フェルナンデス	マトリックス パワータグ	16:54'12"	36'19"
57	ティモシー・ロエ	ドラバック プロフェッショナル サイクリング	16:55'40"	37'47"
58	鈴木 龍	那須ブラーゼン	16:56'07"	38'14"
59	チュン カイ・フェン	ランプレ・メリダ	16:56'35"	38'42"
60	ニール・ヴァンデルブローグ	アヴァンティレーシングチーム	16:58'53"	41'00"

順位	選手名	所属	タイム	タイム差
61	ブレントン・ジョーンズ	ドラバック プロフェッショナル サイクリング	16:59'39"	41'46"
62	サルバドール・グアルディオラ	チーム右京	17:00'23"	42'30"
63	ソーフィアン・ハディ	スカイダイヴドバイ プロサイクリングチーム	17:01'09"	43'16"
64	伊丹 健治	キナンサイクリングチーム	17:03'29"	45'36"
65	徳田 優	日本ナショナルチーム	17:03'51"	45'58"
66	野中 竜馬	キナンサイクリングチーム	17:04'55"	47'02"
67	パブロ・ウルタス	チーム右京	17:06'06"	48'13"
68	グレゴア・ガズボダ	キナンサイクリングチーム	17:06'36"	48'43"
69	アンドレア・バリニ	スカイダイヴドバイ プロサイクリングチーム	17:06'48"	48'55"
70	鈴木 真理	宇都宮ブリッツェン	17:06'56"	49'03"
71	大久保 陣	宇都宮ブリッツェン	17:08'31"	50'38"
72	黒枝 土揮	NIPPO・ヴィーニ ファンティーニ	17:11'55"	54'02"
73	ポリス・シュビレフスキー	RTS サンティック レーシングチーム	17:16'53"	59'00"
74	黒枝 咲哉	日本ナショナルチーム	17:17'48"	59'55"
75	新城 雄大	那須ブラーゼン	17:19'29"	1:01'36"
76	サン ジャエ・ジャン / 張先載	RTS サンティック レーシングチーム	17:19'34"	1:01'41"
77	面手 利輝	日本ナショナルチーム	17:19'55"	1:02'02"
78	水野 恭兵	キナンサイクリングチーム	17:22'04"	1:04'11"
79	青柳 憲輝	宇都宮ブリッツェン	17:22'28"	1:04'35"
80	綾部 勇成	愛三工業レーシングチーム	17:23'10"	1:05'17"
81	岩井 航太	那須ブラーゼン	17:23'55"	1:06'02"
82	吉田 隼人	マトリックス パワータグ	17:25'13"	1:07'20"
83	ニコラス・マリニ	NIPPO・ヴィーニ ファンティーニ	17:26'36"	1:08'43"
84	阿部 高之	宇都宮ブリッツェン	17:26'55"	1:09'02"
85	向川 尚樹	マトリックス パワータグ	17:29'02"	1:11'09"
86	横山 航太	シマノレーシングチーム	17:30'00"	1:12'07"
87	福田 真平	愛三工業レーシングチーム	17:32'34"	1:14'41"
88	小山 貴大	シマノレーシングチーム	17:33'50"	1:15'57"
89	木村 圭佑	シマノレーシングチーム	17:38'00"	1:20'07"

### ●個人総合ポイント General Individual Points Classification

順位	選手名	所属	堺	いなべ	美濃	南信州	富士山	伊豆	東京	総合ポイント
1	ヴァレリオ・コンティ	ランプレ・メリダ			7	22		25		54
2	ルカ・ビベルニク	ランプレ・メリダ		16	5	12		20		53
3	フランシスコ・マンセボ	スカイダイヴドバイ プロサイクリングチーム		20	5	8		14		47
4	トマ・ルバ	プリチストン アンカー サイクリングチーム		14		16		16		46
5	ブレントン・ジョーンズ	ドラバック プロフェッショナル サイクリング	10		14				20	44
6	ニコラス・マリニ	NIPPO・ヴィーニ ファンティーニ			25				16	41
7	ニコロ・ボニファジオ	ランプレ・メリダ		1	12				25	38
8	ニール・ヴァンデルブローグ	アヴァンティ レーシングチーム	9		15	6		5	2	37
9	ベンジャミン・ブラデス	マトリックス パワータグ				25		3	7	35
10	ポリス・シュビレフスキー	RTS サンティック レーシングチーム			20				14	34



### ●個人総合山岳 General KOM Classification

順位	選手名	所属	堺	いなべ	美濃	南信州	富士山	伊豆	東京	総合ポイント
1	ラヒーム・エマミ	ビシュガマン ジャイアント チーム				10	15			25
2	チュン カイ・フェン	ランプレ・メリダ		3	1	7		3		14
3	アミール・ザルガリ	ビシュガマン ジャイアント チーム				3	6	5		14
4	アルヴィン・モアゼミ	ビシュガマン ジャイアント チーム				5		8		13
5	ディラン・ガードルストーン	ドラバック プロフェッショナル サイクリング				12				12
6	ミルサマ・ポルセイデコロコル	タブリーズ ペトロケミカル チーム					12			12
7	ラミン・メフラバニアザル	ビシュガマン ジャイアント チーム			1		8	3		12
8	ホセイン・アスカリ	ビシュガマン ジャイアント チーム				1	10			11
9	ティモシー・ロエ	ドラバック プロフェッショナル サイクリング			10					10
10	マリオ・コスタ	ランプレ・メリダ		5	4					9



### ●新人賞 Young Individual Points Classification

順位	選手名	所属	タイム
1	イリア・コシェヴォイ	ランプレ・メリダ	16:20'31"
2	トーマス・デイヴィソン	アヴァンティ レーシングチーム	16:20'38"
3	ルカ・ビベルニク	ランプレ・メリダ	16:21'52"
4	ダニエル・ホワイトハウス	チーム右京	16:23'48"
5	ヴァレリオ・コンティ	ランプレ・メリダ	16:25'07"
6	アルヴィン・モアゼミ	ビシュガマン ジャイアント チーム	16:25'39"
7	アダム・フェラン	ドラバック プロフェッショナル サイクリング	16:26'27"
8	アミール・コラドゥーズハグ	タブリーズ ペトロケミカル チーム	16:30'16"
9	アリ・ハデミ	タブリーズ ペトロケミカル チーム	16:35'59"
10	中根 英登	愛三工業レーシングチーム	16:37'59"

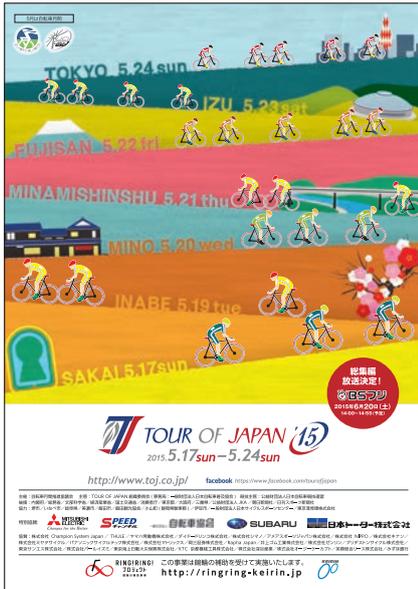


### ●団体総合時間 General Team Time Classification

順位	チーム名	タイム	タイム差
1	ビシュガマン ジャイアント チーム	48:55'41"	0:00
2	プリチストン アンカー サイクリングチーム	49:03'52"	8'11"
3	アヴァンティ レーシングチーム	49:06'41"	11'00"
4	ランプレ・メリダ	49:06'51"	11'10"
5	タブリーズ ペトロケミカル チーム	49:08'29"	12'48"
6	スカイダイヴドバイ プロサイクリングチーム	49:10'11"	14'30"
7	ドラバック プロフェッショナル サイクリング	49:30'22"	34'41"
8	マトリックス パワータグ	49:36'59"	41'18"
9	愛三工業レーシングチーム	49:41'32"	45'51"
10	NIPPO・ヴィーニ ファンティーニ	49:45'19"	49'38"



# Public relations tool & activities 広報ツール



ポスター



ツアー・オブ・ジャパン  
オフィシャルWEBサイト



ツアー・オブ・ジャパン  
2015大会特別WEBサイト

twitter

USTREAM



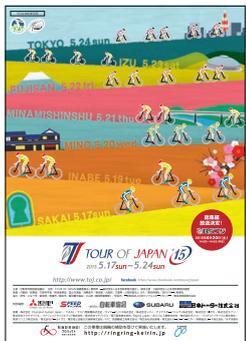
テキストライブ  
Twitter



ライブストリーミング  
USTREAM

YouTube

facebook



チラシ表



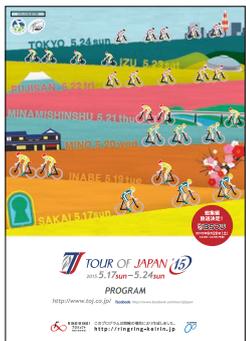
チラシ裏



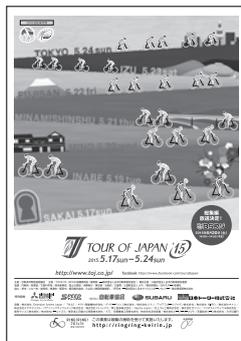
ダイジェストムービー  
YouTube



facebook



プログラム



自転車専門誌広告掲載  
CYCLE SPORTS 6月号  
BiCYCLE CLUB 6月号  
FUNRIDE 6月号



位置情報システム  
スマココ



インスタグラム



オフィシャルグッズ

# PublicityTV パブリシティ(テレビ)



第18回ツアー・オブ・ジャパン  
 ~からだひとつ自転車ひとつで戦う男たち~ BSフジ  
 2015年6月20日(土) 14:00~14:55



スーパーニュース 東海テレビ  
 2015年5月15日(金)



CTYケーブルテレビ  
 2015年5月19日(火)



ほっとイブニングみえ NHK津  
 2015年5月19日(火)



UP! ニュースラインアップ 名古屋テレビ  
 2015年5月19日(火)



CCNケーブルテレビ  
 2015年5月20日(水)



報道ゲンバFace テレビ信州  
 2015年5月21日(木)



すぼると! フジテレビジョン  
 2015年5月24日(日)



とちぎ640 いちスポ  
 NHK宇都宮  
 2015年5月25日(月)



news every.しずおか  
 静岡第一テレビ  
 2015年5月25日(月)



旬感☆みえ  
 三重テレビ放送  
 2015年6月1日(月)



ニュースほっと関西  
 NHK大阪  
 2015年6月23日(火)

## ●18th Tour of Japan 関連OA番組一覧

放映日	番組名	放送波	内容	エリア
5月15日	金 スーパーニュース	東海テレビ	記者会見	地域
5月19日	火 生中継	CTYケーブルテレビ	いなべステージ中継	地域
5月19日	火 ほっとイブニングみえ	NHK津	いなべステージ結果	地域
5月20日	水 UP!ニュースラインアップ	名古屋テレビ	いなべステージ結果	地域
5月20日	水 ストリーミング放送	CCNケーブルテレビ	美濃ステージ中継	地域
5月21日	木 報道ゲンバFace	テレビ信州	南信州ステージ結果	地域
5月21日	木 生中継	飯田ケーブルテレビ	南信州ステージ中継	地域
5月21日	木 ニュース	NBS長野放送	南信州ステージ結果	地域
5月24日	日 すぼると!	フジテレビジョン	東京ステージ結果	全国
5月25日	月 とちぎ640 いちスポ	NHK宇都宮	東京ステージ結果	地域
5月25日	月 news every.しずおか	静岡第一テレビ	伊豆ステージ結果	地域
6月1日	月 旬感☆みえ	三重テレビ放送	いなべステージ結果	地域
6月20日	土 第18回ツアー・オブ・ジャパン ~からだひとつ自転車ひとつで戦う男たち~	BSフジ	全ステージハイライト	全国
6月23日	火 ニュースほっと関西	NHK大阪	堺ステージ結果	地域

# Publicity Newspaper, WEB, Magazin

## 記者会見・事前告知



2月3日 (火) サイクスポーツ.jp  
2月18日 (水) サイクスポーツ.jp



2月19日 (木) 日刊スポーツ



2月19日 (木) 東京中日スポーツ



2月20日 (金) AutoBlog



2月21日 (土) 下野新聞

## 全ステージ



4月3日 (金) やまがたニュースオンライン



5月18日 (月) Yahoo!ニュース



5月11日 (月) Sportiva



7月号 バイク雑誌 21



8月号 サイクスポーツ



8月号 バイククルクラブ

## 海外メディア



5月19日 (火) Sportiva



5月21日 (木) tuttopbiciweb  
5月24日 (日) 中国時報



5月24日 (日) 青年日報



5月24日 (日) Cyclingtips



5月24日 (日) La Gazzetta dello Sport



5月24日 (日) WilerFlits



5月25日 (月) テヘラン新聞

## 堺ステージ



5月18日 (月) 下野新聞



5月18日 (月) サイクルスタイル



5月18日 (月) シクロワイアード



5月18日 (月) 朝日新聞



5月18日 (月) 日刊スポーツ

いなべステージ



5月19日(火) サイクルジャム



5月20日(水) 朝日新聞



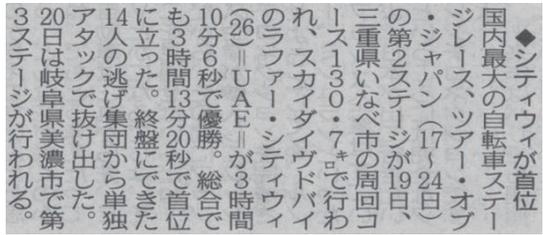
5月20日(水) 中日新聞



5月20日(水) 伊勢新聞



5月20日(水) 日刊スポーツ



5月20日(水) 東京中日スポーツ



5月20日(水) asahicom

美濃ステージ



5月15日(金) 毎日新聞



5月19日(火) シーシーエヌ



5月20日(水) Nikkansports.com



5月21日(木) 下野新聞



5月21日(木) 岐阜新聞



5月21日(木) 読売新聞



5月21日(木) 中日新聞



沿道で市民応援、選手後押し



5月23日(土) 朝日新聞



# 南信州ステージ



5月21日 (木) 日刊スポーツ



5月21日 (木) ニコニコ動画



5月21日 (木) サイクリスト



5月21日 (木) サイクルスポーツ.jp



5月22日 (金) 朝日新聞



5月22日 (金) 毎日新聞



5月22日 (金) 南信州新聞



5月22日 (金) 信濃毎日新聞

# 富士山ステージ



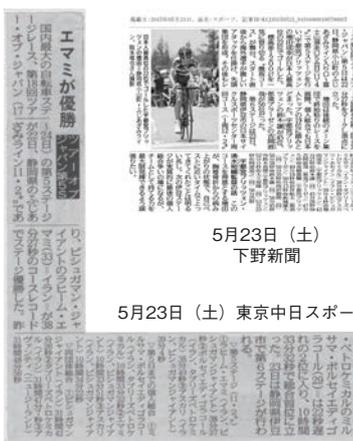
5月22日 (金) シクロワイアード



5月22日 (金) サイクリスト



5月23日 (土) 静岡新聞



5月23日 (土) 東京中日スポーツ

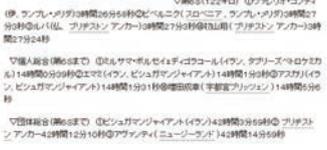


5月23日 (土) 朝日新聞

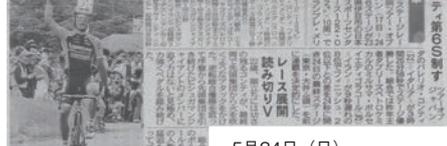
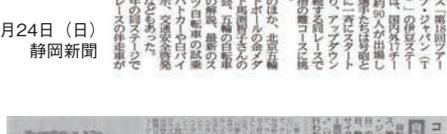
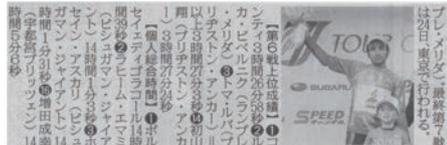


5月23日 (土) 日刊スポーツ

伊豆ステージ



5月23日(土) asahicom



5月24日(日) 日刊スポーツ



5月24日(日) 下野新聞

5月24日(日) 伊豆毎日新聞

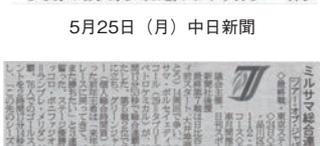
東京ステージ



5月24日(日) シクロワイアード



5月24日(日) サイクリスト



5月25日(月) 東京中日スポーツ



5月25日(月) 朝日新聞



5月24日(日) AFPBB News



5月25日(月) 朝日新聞



5月25日(月) 朝日新聞

5月25日(月) 下野新聞

5月25日(月) 朝日新聞

# Venue landscape, etc. 会場風景 他



▲記者発表 (スバルスタースクエア)



▲自転車文化センターギャラリー特別展示



▲チーフコミセール Jamaludiah Mahmood氏



▲大会前日記者発表

## 堺ステージ Sakai stage



## いなベステージ Inabe stage



## 美濃ステージ Mino stage



## 南信州ステージ Minami shinshu stage



## 富士山ステージ Fuji-san stage



▲大会メインMC：Alee氏

## 伊豆ステージ Izu stage



## 東京ステージ Tokyo Stage



# Sponsorship & Event Exposure 協賛・会場











 TOUR OF JAPAN '15

<http://www.toj.co.jp/2015/>